

平成 29 年度

財 務 諸 表

第 14 期事業年度

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

国立大学法人 高知大学

貸借対照表
(平成30年3月31日)

(単位:千円)

【資産の部】		
I 固定資産		
1 有形固定資産		
土地	25,965,928	
減損損失累計額	△ 110,698	25,855,230
建物	36,512,495	
減価償却累計額	△ 14,948,784	
減損損失累計額	△ 8,789	21,554,920
構築物	2,652,880	
減価償却累計額	△ 1,643,589	1,009,291
機械装置	598,166	
減価償却累計額	△ 588,711	9,454
工具器具備品	26,267,515	
減価償却累計額	△ 20,009,880	6,257,634
図書		3,227,218
美術品・收藏品		31,371
船舶	38,553	
減価償却累計額	△ 38,269	283
車輛運搬具	120,301	
減価償却累計額	△ 91,216	29,084
建設仮勘定		188,038
有形固定資産合計		58,162,527
2 無形固定資産		
特許権		18,427
借地権		590
ソフトウェア		17,563
特許権仮勘定		39,009
電話加入権		1,515
無形固定資産合計		77,105
3 投資その他の資産		
投資有価証券		601,818
長期性預金		701,000
投資その他の資産合計		1,302,818
固定資産合計		59,542,451
II 流動資産		
現金及び預金		2,719,983
未収学生納付金収入	22,798	
徴収不能引当金	△ 535	22,263
未収附属病院収入	3,303,405	
徴収不能引当金	△ 2,124	3,301,280
未収入金		180,793
有価証券		1,400,000
たな卸資産		19,007
医薬品及び診療材料		133,460
前払費用		3,557
未収収益		2,425
流動資産合計		7,782,772
資産合計		67,325,224

【負債の部】

I 固定負債

資産見返負債			
資産見返運営費交付金等	2,811,032		
資産見返補助金等	1,350,633		
資産見返寄附金	409,664		
資産見返物品受贈額	2,917,146		
建設仮勘定見返施設費	181,440		
特許権仮勘定見返運営費交付金等	2,600		
特許権仮勘定見返寄附金	339	7,672,857	
大学改革支援・学位授与機構債務負担金		595,768	
長期寄附金債務		385	
長期借入金		9,656,411	
退職給付引当金		148,089	
資産除去債務		163,425	
長期未払金		119,913	
長期リース債務		1,209,980	
固定負債合計			19,566,831

II 流動負債

運営費交付金債務		105,905	
寄附金債務		1,706,541	
前受受託研究費		109,466	
前受共同研究費		120,432	
前受受託事業費等		6,947	
前受金		54,356	
預り科学研究費補助金等		172,717	
預り金		153,474	
一年以内償還予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金		250,135	
一年以内返済予定長期借入金		531,905	
未払金		2,774,996	
未払費用		293,656	
未払消費税等		13,338	
賞与引当金		183,160	
リース債務		624,267	
流動負債合計			7,101,301
負債合計			26,668,132

【純資産の部】

I 資本金

政府出資金		26,518,958	
資本金合計			26,518,958

II 資本剰余金

資本剰余金		22,985,849	
損益外減価償却累計額		△ 13,921,401	
損益外減損損失累計額		△ 119,487	
損益外利息費用累計額		△ 43,528	
資本剰余金合計			8,901,431

III 利益剰余金

前中期目標期間繰越積立金		5,651,331	
当期末処理損失		△ 414,630	
(うち当期総損失)	(△ 414,630)	
利益剰余金合計			5,236,701
純資産合計			40,657,091

負債純資産合計

67,325,224

損益計算書
(平成29年4月1日-平成30年3月31日)

(単位:千円)

経常費用			
業務費			
教育経費		1,386,355	
研究経費		968,948	
診療経費			
材料費	7,156,732		
委託費	890,886		
設備関係費	3,181,735		
研修費	3,393		
経費	<u>665,753</u>	11,898,501	
教育研究支援経費		408,199	
受託研究費		555,766	
共同研究費		154,399	
受託事業費		244,594	
役員人件費		207,740	
教員人件費			
常勤教員給与	7,607,570		
非常勤教員給与	<u>211,582</u>	7,819,152	
職員人件費			
常勤職員給与	7,141,820		
非常勤職員給与	<u>2,414,053</u>	<u>9,555,874</u>	33,199,532
一般管理費			949,303
財務費用			
支払利息			108,917
雑損			<u>3,765</u>
経常費用合計			<u>34,261,519</u>
経常収益			
運営費交付金収益		9,687,516	
授業料収益		2,729,934	
入学金収益		379,213	
検定料収益		78,396	
施設費収益		48,772	
附属病院収益		17,678,252	
受託研究収益		551,263	
共同研究収益		152,661	
受託事業等収益		245,254	
補助金等収益		213,703	
寄附金収益		591,383	
資産見返負債戻入			
資産見返運営費交付金等戻入	460,043		
資産見返補助金戻入	351,239		
資産見返寄附金戻入	80,767		
資産見返物品受贈額戻入	43,793		
特許権仮勘定見返寄附金戻入	<u>9</u>	935,853	
財務収益			
受取利息	3,112		
有価証券利息	3,262		
為替差益	<u>43</u>	6,418	
雑益			
財産貸付料収入	229,687		
農場・演習林収益	30,052		
大学入試センター試験実施料収益	11,402		
引当金戻入益	2,113		
その他雑益	<u>248,872</u>	<u>522,129</u>	
経常収益合計			<u>33,820,755</u>
経常損失			<u>△ 440,763</u>
臨時損失			
固定資産売却損		5,675	
固定資産除却損		12,770	
過年度診療報酬返還損		<u>38,711</u>	57,157
臨時利益			
資産見返運営費交付金等戻入		224	
資産見返物品受贈額戻入		0	
資産見返寄附金戻入		3,808	
資産見返補助金戻入		<u>82</u>	4,115
当期純損失			<u>△ 493,806</u>
前中期目標期間繰越積立金取崩額			<u>79,176</u>
当期総損失			<u><u>△ 414,630</u></u>

キャッシュ・フロー計算書
(平成29年4月1日-平成30年3月31日)

(単位:千円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー	
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 11,816,197
人件費支出	△ 17,911,063
その他の業務支出	△ 808,078
運営費交付金収入	9,835,928
授業料収入	2,502,080
入学金収入	371,599
検定料収入	78,396
附属病院収入	17,406,411
受託研究収入	539,161
共同研究収入	212,241
受託事業等収入	286,225
預り科学研究費補助金等の増減額	5,970
補助金等収入	228,159
補助金等の精算による返還金の支出	-
寄附金収入	602,145
その他の収入	537,325
小計	2,070,305
国庫納付金の支払額	-
業務活動によるキャッシュ・フロー	2,070,305
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
有価証券の取得による支出	△ 4,197,831
有価証券の償還による収入	5,200,000
定期預金の預入れによる支出	△ 4,151,300
定期預金の払戻しによる収入	4,001,000
有形固定資産の取得による支出	△ 2,082,663
無形固定資産の取得による支出	△ 14,582
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	22,950
施設費による収入	214,995
施設費の精算による返還金の支出	-
大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	△ 8,129
金銭出資による支出	-
小計	△ 1,015,561
利息及び配当金の受取額	6,251
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,009,309
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	-
短期借入金の返済による支出	-
国立大学法人等債の償還による支出	-
国立大学法人等債の発行による収入	-
長期借入れによる収入	-
長期借入金の返済による支出	△ 481,371
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△ 304,976
リース債務等の返済による支出	△ 750,308
小計	△ 1,536,656
利息の支払額	△ 110,961
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,647,617
IV 資金増加額	△ 586,621
V 資金期首残高	2,206,604
VI 資金期末残高	1,619,983

損失の処理に関する書類

(単位:円)

I 当期未処理損失		414,630,209
当期総損失	414,630,209	
II 損失処理額		
前中期目標期間繰越積立金取崩額		414,630,209
III 次期繰越欠損額		0

国立大学法人等業務実施コスト計算書
 (平成29年4月1日-平成30年3月31日)

(単位:千円)

I 業務費用		
(1) 損益計算書上の費用		
業務費	33,199,532	
一般管理費	949,303	
財務費用	108,917	
雑損	3,765	
臨時損失	<u>57,157</u>	34,318,676
(2) (控除)自己収入等		
授業料収益	△ 2,729,934	
入学料収益	△ 379,213	
検定料収益	△ 78,396	
附属病院収益	△ 17,678,252	
受託研究収益	△ 551,263	
共同研究収益	△ 152,661	
受託事業等収益	△ 245,254	
寄附金収益	△ 591,383	
資産見返運営費交付金等戻入	△ 36,395	
資産見返寄附金戻入	△ 80,767	
特許権仮勘定見返寄附金戻入	△ 9	
財務収益	△ 6,418	
雑益	△ 385,760	
臨時利益	<u>△ 3,808</u>	<u>△ 22,919,520</u>
業務費用合計		11,399,156
II 損益外減価償却相当額		
		919,077
III 損益外減損損失相当額		
		-
IV 損益外利息費用相当額		
		3,575
V 損益外除売却差額相当額		
		1,400
VI 引当外賞与増加見積額		
		5,034
VII 引当外退職給付増加見積額		
		△ 581,226
VIII 機会費用		
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料 による貸借取引の機会費用	7,880	
政府出資等の機会費用	<u>14,893</u>	22,774
IX (控除)国庫納付額		
		<u>-</u>
X 国立大学法人等業務実施コスト		
		<u><u>11,769,792</u></u>

注 記 事 項

(重要な会計方針)

国立大学法人会計基準（「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」報告書）（国立大学法人会計基準等検討会議 平成28年2月1日改訂）及び「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針（文部科学省、日本公認会計士協会 平成28年4月21日最終改訂）を適用して、財務諸表を作成している。

1. 運営費交付金収益及び授業料収益の計上基準

原則として、期間進行基準を採用している。ただし、退職一時金については費用進行基準を、「特別経費」及び「特殊要因経費」に充当される運営費交付金の一部については、文部科学省の指定に従い業務達成基準あるいは費用進行基準を採用している。

なお、「国立大学法人高知大学業務達成基準取扱要領」に基づき学長の承認を得た事業については、業務達成基準を採用している。

2. 減価償却の会計処理方法

(1) 有形固定資産

定額法を採用している。

耐用年数については、法人税法に基づく耐用年数を採用、受託研究収入等により購入した償却資産については当該受託研究等の期間を耐用年数としている。

主な資産の耐用年数は以下のとおりである。

建 物	8～50年
構 築 物	10～60年
機 械 装 置	5～7年
工 具 器 具 備 品	1～20年
船 舶	5年
車 輛 運 搬 具	4～7年

また、特定の償却資産（国立大学法人会計基準第84）及び資産除去債務に対応する特定の除去費用等（国立大学法人会計基準第90）に係る減価償却相当額については、損益外減価償却累計額として資本剰余金から控除して表示している。

(2) 無形固定資産

定額法を採用している。

なお、法人内利用のソフトウェアについては、法人内における利用可能期間（5年）に基づいている。

3. 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金及び見積額の計上基準

運営費交付金で財源措置されない職員に対して、支給見込額のうち当期に負担すべき額を計上している。

なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外賞与増加見積額は、当事業年度末の引当外賞与見積額から前事業年度末の同見積額を控除した額を計上している。

(2) 退職給付引当金及び見積額の計上基準

運営費交付金で財源措置されない職員に対して、当期末における自己都合要支給額の100%を計上している。

なお、国立大学法人等業務実施コスト計算書における引当外退職給付増加見積額は、国立大学法人会計基準第35に基づき計算された退職一時金に係る退職給付引当金の当期増加額を計上している。

(3) 徴収不能引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

4. 退職給付に係る会計処理

(1) 職員の退職給付に充てるため、非積立型の退職一時金制度を採用している。当該制度では、給与と勤務時間に基づいた一時金を支給しており、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算している。

(2) 確定給付制度

①簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

期首における退職給付引当金	127,944千円
退職給付費用	33,609千円
退職給付の支払額	<u>13,464千円</u>
期末における退職給付引当金	148,089千円

②退職給付に関連する損益

簡便法で計算した退職給付費用	33,609千円
----------------	----------

5. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的債券

償却原価法（定額法）

(2) その他有価証券

時価のないもの

移動平均法による原価法

6. たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 医薬品及び診療材料

評価基準 低 価 法

評価方法 移動平均法

ただし、当面の間、評価方法は最終仕入原価法による。

(2) 貯蔵品

評価基準 低 価 法

評価方法 最終仕入原価法

7. 外貨建資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理している。

8. 国立大学法人等業務実施コスト計算書における機会費用の計上方法

(1) 国等の財産の無償又は減額された使用料による賃借取引の機会費用の計算方法

近隣の地代や賃借料を参考に計算している。

(2) 政府出資等の機会費用の計算に使用した利率

平成30年3月末における10年国債（新発債）の利回りを参考に0.045%で計算している。

9. リース取引の会計処理

リース料総額が300万円以上のファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

10. 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理方法は、税込方式による。

(注記事項)

1. 貸借対照表関係

(1) 引当外退職給付引当金の見積額	9,723,376千円
(2) 引当外賞与引当金の見積額	738,946千円
(3) 債務保証の総額	845,904千円
(4) 担保に供している資産	
土地	3,022,457千円
建物	8,638,961千円
担保提供資産に対応する債務残高	10,188,316千円

(5) 利益剰余金のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

①国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの（長期借入金を含む）

附属病院に関する借入金の元金償還額の累計	11,795,175千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費の累計	7,690,879千円
利益剰余金に与える影響額（差引き）	4,104,296千円

②国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額の累計

756,694千円

③国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる未収附属病院収入のうち、国からの出資でなく譲与としたことによるもの

405,727千円

④国からの承継時において、附属病院の財産的基礎と考えられる医療品及び診療材料について、国からの出資でなく譲与としたことによるもの

177,406千円
5,444,125千円

(6) 土地の譲渡に伴う資本金の減少

①譲渡した土地の帳簿価額及びその概要

帳簿価額	21,261千円
西町団地（事務局長宿舍） 高知県高知市西町40番1	263.91㎡

②譲渡理由

保有資産の見直しによる譲渡

③譲渡収入の額

22,950千円

④独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付額の算定に当たり譲渡収入より控除した費用の額

6,690千円

⑤独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付額

8,129千円

⑥独立行政法人大学改革支援・学位授与機構への納付が行われた年月日
平成30年3月30日

⑦減資額

17,150千円

2. 損益計算書関係

(1) 当期総損失のうち、法人移行時における固有の会計処理等に起因するもの

①国からの承継時において、附属病院の建物、構築物等の時価評価等により、借入金見合いの資産の額が、当該借入金に係る債務負担額を下回っていたこと等によるもの（長期借入金を含む）

附属病院に関する借入金の元金償還額	786,347千円
当該借入金により取得した資産の減価償却費	914,638千円
当期総損失に与える影響額（差引き）	△128,290千円

②国立大学法人等が獲得した附属病院収益と診療機器等に係る減価償却費見合いの資産見返物品受贈額戻入が二重になっていることによるもの

法人移行時に国から承継した資産見返物品受贈額のうち、対応する資産の減価償却費が診療経費に分類されるものに関する資産見返物品受贈額戻入額

110千円
△128,179千円

3. キャッシュ・フロー計算書関係

(1) 資金の期末残高の貸借対照表科目別の内訳

現金及び預金勘定	2,719,983千円
<u>定期預金</u>	<u>△1,100,000千円</u>
資金期末残高	1,619,983千円

(2) 重要な非資金取引

①現物寄附の受入による資産の取得

工具器具備品	31,236千円
<u>図書</u>	<u>2,527千円</u>
合計	33,764千円

②ファイナンス・リースによる資産の取得

工具器具備品 1,108,420千円

4. 国立大学法人等業務実施コスト計算書関係

機会費用の計上方法は重要な会計方針に記載している。

5. 固定資産の減損
該当なし

6. 重要な債務負担行為

件名	契約期間	契約金額
賃貸借契約 駐車場600台分	平成30年2月1日から 平成50年1月31日まで	月額 2,592千円

7. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は、資金運用については預金、国債、地方債及び政府保証債等に限定し、資金調達については大学改革支援・学位授与機構からの借入れに限定している。

資金運用にあたっては国立大学法人法第35条が準用する独立行政法人通則法第47条の規定に基づき、預金及び国債を保有している。また、寄附により株式を保有しているが、寄附目的が本学の業務を不当に拘束することはない。

未収附属病院収入は、債権管理細則に沿ってリスク管理を行っている。

大学改革支援・学位授与機構債務負担金及び長期借入金の使途は附属病院の整備資金であり、文部科学大臣の事前承認に基づいて借入れを実施している。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

期末日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりである。

なお、時価等を把握することが極めて困難と思われる非上場株式等は、次表には含めていない。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額(*1)	時価(*1)	差額(*1)
(1) 投資有価証券及び有価証券			
満期保有目的債券	2,001,433	2,029,220	27,786
(2) 長期性預金	701,000	704,558	3,558
(3) 現金及び預金	2,719,983	2,719,983	-
(4) 未収附属病院収入	3,303,405	3,303,405	-
徴収不能引当金(*2)	△ 2,124	△ 2,124	-
	3,301,280	3,301,280	-
(5) 大学改革支援・学位授与機構債務負担金	(845,904)	(885,873)	(39,969)
(6) 長期借入金	(10,188,316)	(10,276,524)	(88,208)
(7) リース・割賦債務	(1,993,635)	(2,051,351)	(57,715)
(8) 未払金	(2,735,522)	(2,735,522)	-

(*1) 負債に計上されているものは、()で示している。

(*2) 未収附属病院収入に個別に計上している徴収不能引当金を控除している。

(注1) 金融商品の時価の算定方法

(1) 投資有価証券及び有価証券

国債については、日本証券業協会が公表している公社債店頭売買参考統計値による。

譲渡性預金（貸借対照表計上額1,400,000千円）については、短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額による。

(2) 長期性預金

これらの時価については、期間に基づく区分ごとに、新規に預金を行った場合に想定される預金金利で割り引いた現在価値による。

(3) 現金及び預金、並びに(4) 未収附属病院収入

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額による。なお、未収附属病院収入のうち貸倒懸念債権については、担保又は保証による回収見込額等により、時価を算定している。

(5) 大学改革支援・学位授与機構債務負担金、(6) 長期借入金及び(7) リース・割賦債務

これらの時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入又は、リース取引または割賦購入取引を行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法により算定している。なお、大学改革支援・学位授与機構債務負担金については一年以内償還予定額を、長期借入金については一年以内返済予定額を、リース・割賦債務は長期リース債務及び長期未払金で構成されており、これらには一年以内支払予定額をそれぞれ含んでいる。

(8) 未払金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額による。

8. 賃貸等不動産関係

当法人は、高知県において、賃貸等不動産を保有しているが、賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略している。

9. 資産除去債務関係

(1) 資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

①当該資産除去債務の概要

石綿障害予防規則等に伴う建物のアスベスト除去費用等である。

②当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を残存耐用年数に基づいて見積り、割引率は期間に応じた国債利回りを使用して金額を計算している。

③当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

変動の内容	当事業年度における総額の増減
期首残高	159,849千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-千円
時の経過による調整額	3,575千円
資産除去債務の履行に伴う減少額	-千円
期末残高	163,425千円

10. 重要な後発事象

該当なし